

(第12報) 日本自立支援パワリハ学会、2018年(東京)

演題名:CASAの導入により難聴や認知症の長期的な傾向を知ることが出来る(会話力健康手帳の勧め)

発表者:佐藤 愛子、石川 達人、青木 さつき、村中 茂義、浅田 章

所属:すこやか生野

Type3:難聴が高度で 認知症軽度の方

■98歳 女性

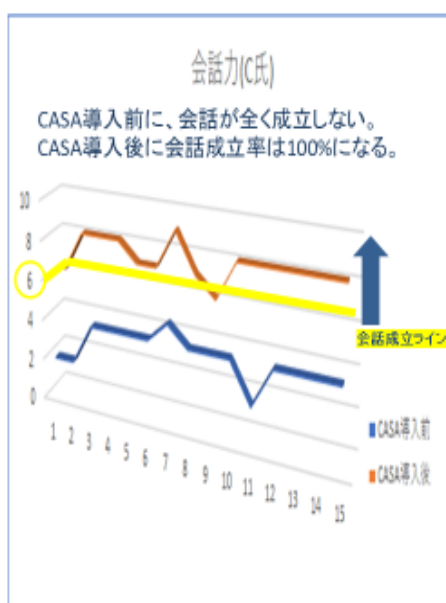
■認知症度 I ■要介護 2

※普通の声での会話が困難。耳元で大きな声で話せば、聞こえる。

※意思疎通、難聴により支障あり。



CASA導入前は、全く会話成立せず。
導入後は会話成立率100%になった。



概略:75名、のべ1,210回の面談を行った。CASAの導入により、74名で会話力・表情・積極性・総合力は有意に増強された。個人別に数週(最長29週)にわたり、「会話力健康手帳」を作成した。各個人の聴力・認知症度を長期的に観察し、会話力健康手帳を作成することは、聴力の低下・認知症度の進行を知る上で、有用である。